

きゅうさかきじゅくほんじんおもてもん
「旧坂木宿 本陣表門」

町指定有形文化財（建造物）

所在地：大字坂城 6329-1 所有者：坂城町 指定：平成 16 年 3 月 25 日

坂木宿は北国街道随一賑わいのあった宿場と言われ、軽井沢の追分から越後高田まで結ばれ、参勤交代のための大名行列や善光寺参りの人々が多かったとされています。

宿場成立時に本陣であった宮原家は、寛政11（1799）年に類焼したため、脇本陣であった中沢家が本陣を勤めることになりました。天保4年（1833）に宮原家が再建されたため、その後は宮原家と中沢家とが代々交代で本陣を勤めることになりました。本陣とは大名、公家などが宿泊する施設のことです。

現在、当坂城町には本陣関係の建築物は、この旧宮原家の表門を除き現存していないため、唯一残された当時の建物といえます。

本陣表門の構造は、入母屋造りの棧瓦葺きで長屋門様式を呈しており、扉以外は大壁塗りとなっています。門扉は内開きの大扉で、八双金物は、戦争のため供出されたものと思われ、現存していませんでしたが、その痕跡から江戸時代中期の様相とされ、このことより、門の建築時期は江戸時代中期と考えられています。

今までに多くの手が加えられていましたが、平成 15 年度に修復されました。

法 量 間口 6 間（約 10.9m） 奥行 2 間半（約 4.6m） 門の間口 10 尺（約 3.0m）

